学校だより

# 錦城の詩

平成２９年（２０１７年）
１１月２０日（第９号）
明石市立錦城中学校

校長 潮　勇 次

１１月になって、寒気の到来で冬へと季節が変わろうとしています。１０月の後半は季節外れの台風の影響で東播新人戦の日程が大幅にずれ込み、本校だけでなく市内の運動部が大変苦労していました。本校もテニス部が東播大会まで勝ち上がりましたが、順延が続きコンディション維持に大変苦労しました。

さて、３年生は進路決定の大切の季節になってきました。今年の入試の大きな変更点は明石商業の学力検査が全県になったことや加古川東や明石西の定員減などがあります。お家の方とよく相談して三者懇談に臨んでほしいと思います。２年生は部活動の中心として、生徒会選挙を経て３学期からは生徒会を引き継ぐことになります。自分のことが自分でできるようになってきた１年生はスキー実習の準備が始まります。１年間培ってきたクラスの団結をスキー実習で発揮し、２年生に向けてのステップになってほしいと願っています。

【　全国学力学習状況調査について　（錦城中の分析結果）】

４月１８日に実施した全国学力学習状況調査の校内分析についておしらせします。国語・数学ともに、全国・県・市の状況と比較して極めて良好な結果でした。後日明石市全体の分析結果については、明石市教育委員会からの文書があります。

| | 国語Ａ | | 国語Ｂ | | 数学Ａ | | 数学Ｂ | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | H28 | H29 | H28 | H29 | H28 | H29 | H28 | H29 |
| 全国 | 75.6 | 77.4 | 66.5 | 72.2 | 62.2 | 64.6 | 44.1 | 48.1 |
| 兵庫県 | 76.0 | 78 | 65.8 | 72 | 65.7 | 68 | 45.5 | 50 |
| Ａ：主として知識　　Ｂ：主として活用 | | | | | | | | |

〔数学〕Ａ問題の正答率が高く、基礎基本的な知識の理解については特に高得点であった。Ｂ問題については、Ａ問題よりも正答率が下がるものの、平均点よりも高水準であった。問題別に分析すると、「関数の意味」「事象と式の対応を捉える」「回転移動の意味」「証明の仕組み」「図形の対称性を理解する」が正答率の低い問題でした。この改善策としては、「与えられた情報を読み、必要な情報を適切に選択し、判断する力をつけさせる」「証明の必要性と意味を証明された命題に着目し捉える活動を充実させる」ことをこれからの授業で重点的に取り組み改善を図っていきたい。総じて数学の得点が高かった取組の要因として、２年生から行っている習熟度別授業の成果があげられる。本校の少人数授業は、標準クラスと５名程度の少人数の基礎クラスを設けている。この取組がＡ問題の正答率につながったと推察している。次年度に向けて、現状の少人数授業の成果を踏まえ、この制度を維持していく方針である。

〔国語〕国語の結果からは、Ａ問題もＢ問題も平均点を上回っているが、Ｂ問題の方が平均点をより上回っていた、このことから、活用の力もついてきていると推察している。また無回答率も下がり、真剣に問題に取り組む姿勢もついてきている。唯一正答率が平均点を下回った問題が、楷書と行書についての設問であった。この問題については、伝統的な言語文化の特質からの出題で楷書と行書を比較して筆順や運筆などの違いを理解する内容であった。この対策としては、３年の書写授業で学習させ、理解を深めたいと考えている。Ｂ問題の正答率で気になる問題として「比喩を用いた表現」がある。この問題は平均点を上回っているものの正答率は決して高くはなかった。国語科では、ディベートを用いた授業で表現力や創造性を高める取り組みを進めている。一定の成果が出てきているが、これからの指導の中で比喩を用いた表現につながる場面を工夫したい。また、特別な支援が必要な生徒への支援については、特別支援教育支援員がその支援にあたっており、生徒指導相談員の支援も含め「わかる授業」の充実に努めていきたい。

〔生活〕全国平均と１０ポイント以上の開きのあるプラスの項目には「総合学習の課題解決・調べ学習」「授業のグループの課題解決学習」「授業の生徒間の話し合い」「授業の学習目標を書く」「国語の授業」「読書」「国語は社会で役立ちますか」「数学は好きですか」「数学の授業」があります。日々の学習で課題を見つけ調べて自分の力で解決していこうとする態度が育っています。また。授業についても興味関心を持って取り組んでいることがわかる。マイナスの項目もあるが、ＳＮＳに関する項目においても平均値よりも低い値に留まっている。生活面においては個々に課題はあるが、集団としては一定の評価ができると判断している。

〔総論〕昨年の結果と比して同等の結果であったと分析している。学校全体として振り返っても学習や行事に取り組む姿勢は良好であり、日々の生活の中で大きな問題は発生していない。しかし、個々には生活面・学習面で取り組む課題が山積しているケースもあり、きめ細やかな個別対応の充実が必要な事案がある。教育相談や各種アンケートから思いをくみ取り、相談しやすい雰囲気づくりをつくり、学習や生活の充実につながる支援体制と早期に気づく相談体制の充実に努めていきたい。

【連合音楽会　１０月２７日】

１０月２０日の文化発表会の余韻を残し、３年生は市民会館で行われた連合音楽会に出演しました。「大地讃頌」「結ーゆいー」を合唱し、夢の世界を全体合唱しました。心のこもった歌で胸が熱くなりました。入学してきた頃の無邪気な７１回生が青年になったなあ　とたくましさも感じました。卒業まで指折り数える日々になってきました。勉強も学校生活も悔いが残らないように頑張り通してほしいと強く願っています。

【オープンスクール　１０月２８日】

１時間目は昨年本校が研究発表した道徳を全クラスで行い、小学校からもたくさんの先生に来校していただきました。小中一貫教育の取組の一つとして小学校の先生にも中学校の授業を見ていただく機会になりました。４時間目に授業参観、その後、学年懇談会と進路説明会をおこないました。１５時からＰＴＡ人権部主催の人権講演会で人権の簡単な歴史と道徳の授業の解説をおこないました。

【オープンハイスクール　１１月７日・８日】

今年も第３学区の公立高校のオープンハイスクールが開催されました。３年生は受験（検）を考えている高校に向かいました。兵庫県の公立高校では「行ける学校から行きたい学校」をスローガンに魅力ある学校づくりを進めてきました。いよいよ進路決定の時期がきました。現地に行って説明を聞き、受験校を絞り込みました。

【第２回学校評議会と幼中交流会　１１月１４日】

小中一貫教育の取組を進める中、幼小中の学校評議会を合同開催し、意見交流を進めることを本年度から始めました。ＰＴＡ代表、民生委員代表、自治会代表、愛護協会代表、スクールガード代表の意見をお聞きして、より良い錦城校区を幼小中が一体となって進められるように学校評議会に協力していただいています。今回は幼中の交流会に先立って会議を開催し、交流の様子を参観してもらいました。この事業は、中学生の家庭科の保育学習の体験として、昨年から幼稚園の協力で開催しています。

【夏休みの課題が表彰されました】

〇第４４回明石市文芸祭

市長賞　　・川柳

議長賞　　・俳句

文芸大賞　・川柳

〇全国中学生人権作文コンテスト

・明石・三木地区予選　最優秀賞　　「ヘアドネーションの大切さ」

・兵庫県大会　　奨励賞　　「ヘアドネーションの大切さ」

〇みんなの新聞づくりコンテスト

理事長賞

神戸新聞社賞

販売店賞

入選

〇子どもに伝えたい「本」感動大賞

どきどきドキドキ賞

【減災教育　１１月１６日】

本校では毎年、兵庫県立大学片山教授と明石市の地域防災職員を講師としてお招きして各学年２時間ずつの授業を実施しました。本年度も昨年に引き続き、避難所生活のことやＤＩＧなど地震や津波の被害を想定し、減災や避難のための学習ができました。